輝いている学生たち

スピーチ大会で受賞

国際英語学科 ４年　**吉成　汀**

2015年９月27日、我孫子市国際交流協会主催の国際交流スピーチ大会が開かれました。私は本学の代表として参加し、中央学院大学学長賞を受賞しました。1年間、イギリス・チチェスターカレッジに留学したときに体験したことを、キスチャック先生の指導を受けながら英語のスピーチにまとめ、今回の受賞となりました。

学生生活を満喫しています

心理学科 ３年　**井指みづき**

私は認知系のゼミに所属し、思考や記憶についての論文をまとめ発表しています。また心理学科の広報スタッフとして、先生方にインタビューをし、その内容をホームページに掲載する活動を行っています。オープンキャンパスの手伝いもしています。学園祭では、学科で毎年焼き鳥の模擬店を出店していますが、企画から販売まで参加してとてもやりがいがありました。

我孫子市で行われた宿泊通学のボランティアスタッフとして年３回参加し、小学生と楽しい時間をすごしたことも楽しい思い出です。この他にアルバイトも行うなど、様々な活動に積極的に参加し、普段接することのない方々とコミュニケーションをとれることが出来、充実した学生生活を送れています。

バレーボールに夢中

社会教育学科　３年　**中村未師**

小学５年から始めたバレーボールは、中学３年で全国大会出場、高校３年では東京都ベスト８という成績を残しました。十分な達成感を得てしばらくはバレーボールから離れていましたが、大学に入学してから半年が経ち、またやりたいという気持ちが溢れてきました。ちょうどその頃、同じチームだった先輩から「人数が足りないから試合の助っ人に来てくれ」と頼まれたのがきっかけで、このチームに所属することになりました。

後列右端が中村さん

チームの名前は「深三クラブ」。和気あいあいと毎回楽しく練習しています。区大会では、ライバルチームと優勝争いをしながら、勝ったり負けたりを繰り返しています。

今では、母校のコーチも引き受けており、私の生活にバレーボールは欠かせない存在になっています。

コントラバスで演奏会に

生活文化学科 ３年　**高橋秀歌**

私は高校のときにオーケストラ部でコントラバスという弦楽器を演奏していたことがきっかけで、大学でも音楽を続けたいと思い、家から近い千葉大学の管弦楽団に所属しました。コントラバスはみんなを支える縁の下の力持ち的な役割をしており、お腹に響くような格好良い低音が魅力的です。今は冬の定期演奏会に向けて週２～３回ほど練習しています。勉強・アルバイトとの両立が大変に思うこともありますが、自分の好きな音楽を続けながら他大生との交流ができて、毎回楽しく活動させて頂いています。今年の定期演奏会も墨田トリフォニーホールという立派なホールで演奏させて頂くので、お客様に喜んで頂ける演奏ができるよう、本番まで頑張りたいと思います！

卒業生は今

鈴木ひろみ

生活文化学科
2005年卒

若桑先生の教えを区議の政策に

私は、現在、新宿区議会議員として政治の現場で働かせていただいています。大学時代に若桑みどり教授に教えていただいた、「女性」「男性」という枠組みにとらわれることなく、誰もが「自分らしく」生きることが重要であるという概念が、私の現在の政治家としての基盤となっています。

つい最近まで、地方議会では、議員の出産による欠席理由の規定は「事故」という扱いでのみ取り扱われていました。そのような背景もあり、他の議会において、任期中に出産をすることでマタハラ等により、議員を続けていくことが困難になった女性議員の姿を目の当たりにしました。私は、そんな状況を変えたいという思いから、自身の議員任期中における産休取得実績を公表し、「新宿区議会における区職員の規定を援用した議員の産休制度」を全国の自治体に提案しました。結果、第10回マニフェスト大賞において最優秀政策提言賞を受賞、NHKニュースをはじめ各種新聞等でも大きく取り上げていただきました。その後、全国の市町村議会で「標準規則」が改められ、欠席理由の中に「出産」が明文化されたのです。この改正により、出産を理由に議会を欠席できる規定が全国の都道府県議会で整備されることとなりました。

「女性の社会での活躍」が声高に叫ばれる現在においても、未だセクハラ、出産後の不本意な離職、子育てや介護と仕事の両立、シングルマザーの貧困など、女性を取り巻く社会状況には多くの問題が山積しています。

子育てをしながら議員活動をするのは大変ですが、家族や友人、支援者の方をはじめ、多くの方々に支えられていることを実感しています。一人ひとりが暮らしやすい社会を実現することが最大の恩返しだと思っております。川村学園で教わった「感謝の心」を忘れることなく、これからも邁進して参ります。

越野　由華

社会教育学科　2001年卒

情報セキュリティの分野で

私は2015年４月より、『IT上の脅威から世界を守る』という指針を掲げ世界31ヶ国で事業展開をしている情報セキュリティ企業「カスペルスキー」にて、ITセキュリティリテラシー向上活動を担当しております。インターネットは生活に欠かせない存在となりましたが、サイバー犯罪も年々増加しています。ネット利用者がリスクに対する正しい知識を身につけ、安全に活用できるようになる事を目指しております。本活動の事前調査には、二上先生をはじめとする先生方や学生の皆様にご協力して頂き感謝しております。現在は働く女性に対象を絞った活動を実施しておりますが、皆様とも連携しながら広く啓発できるよう尽力して参りたいと思っております。

編集後記

３年生から始まる“就活”。就職支援室にこまめに顔出しをして、来春社会人としてのスタートを！

発行日／平成28年３月１日　第37号発行
制　作／川村学園女子大学　広報委員会

花時計 vol.37

Kawamura Gakuen Woman's University

2015年度
川村学園女子大学

大学の畑でお芋の収穫　―共通教育科目・農とくらし／自然を体験する―

特集　座談会 就活を終えて ―４年生の体験談を聞く―

心理相談センターの公開講座　p6
川村オリジナルのトマトジャム　p7
能の装束着けをみる　p7
第27回鶴雅祭　p8
教員紹介　p9
BOOKS 新刊紹介　p9
講演会 大学生とボランティア　p10
公開講座 東葛我孫子発見伝　p10
上橋先生本屋大賞受賞　p10
クラブ活動報告 ほか　p11
輝いている学生たち　p12
卒業生は今　p12

〒270-1138　千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地
Tel. 04-7183-0111（代）　Fax. 04-7183-0115
ホームページ　http://www.kgwu.ac.jp/
ブログ　http://liberalarts-kgwu.sblo.jp/
フェイスブック http://facebook.com/kgwu.pr

就職委員長　松井洋先生を囲んで
上段左より　本間早季子さん、宮下稜子さん、對馬芽衣さん
下段　就職支援室　鈴木江奈巳、嶋田美奈

座談会　就活を終えて
― 4年生の体験談を聞く ―

就職委員長より

松井　就職委員会というのは、学生のみなさんの就職バックアップをどうやってするかを考える委員会で教員・職員が集ってみなさんの就職がどうしたらうまくいくかということをずっと考えておりますと、最初に基本的な考え方について言います。そもそも就職は何のためにするのかというと、二つ考えられます。まず一つ目は、経済的な自立をするということです。例えば、世界的に見ると多くはないのですが、近年日本では離婚件数が多いと言われています。昔の日本ではもっと少なかった訳ですが、離婚が多い事は不幸せかというと、難しい問題で、女性が経済的に自立すると離婚できるようになるわけです。つまり昔の日本女性は離婚したくてもできなかった訳です。このことから考えても、まずは経済的に自立することは、女性にとってとても大事な事だと思います。もう一つは、仕事は生活するための手段でもありますが、それが人生の生き甲斐につながるということです。豊かな充実した人生を送るためには、お金さえ儲かればいいというのではなく、仕事を通じて何かやりがいとか、自分が成長したとか立派になったという気持ちが味わえると、幸せに通じると考えます。私たちも、その二つの側面からバックアップしていきたいとずっと考えてきた訳です。そのような考え方が基本的な理念ですけれども、もう一つお話しすべき点は、社会情勢についてですね。社会の情勢を考えると、皆さんは10年前の学生に比べると、少しは良かったですよね。10年前は就職氷河期などと言われておりましたけれど。その時期は、本当に熱心にやって優秀な学生がなかなか就職できないということがありました。現在はその頃に比べると氷もとけて良くなったかなという状況になったと思います。ただ、他にも色々な状況がありましてね。就職活動スケジュールの変更と、もう一つ大きな変化として、インターンシップがかなりポピュラーになってきました。川村学園女子大学の就職支援の特徴の一つは、就職支援室の人がかなり親身になって接しているということです。基本的には全員に個別対応します。僕らのころは勝手に就職しろと言われていましたので、それに比べると、相当手厚いことをしているなと思います。また、「ライフプランニング」や「キャリアプランニング」といった授業を一年生から受講して、授業の中で、皆さんの就職活動をバックアップするというのも特徴かなと考えています。そのような中で、私たちも色々なんとかしようと思って参りましたし、皆さんも頑張ってくれていると思っています。今日は無事に就職活動を終えた方ばかりですので、どうやったらうまくいくのかというお話をきかせていただければと思っています。

就職委員長　松井　洋 先生

就職活動状況について

就職支援室　今年の就職活動の状況なのですけれど、今までと大きく活動時期が変わっています。実際に試験を受ける時期は８月から、説明会は３月からと大幅に期間が短くなりました。でも実際は、おそらく企業への就職活動をした方は、その時期が問題にならないくらい早めに準備されていたかと思います。実際に訪問する時期と準備しなければいけない時期にまどわされてしまったという人が大勢いました。

時期がだいぶ変わってきたのですけれども、実際に学生が就職活動の準備をしなくてはいけない時期は、実は例年と変わっていません。３年生の後期､夏休みにインターンシップを終えた後から、ガイダンスや履歴書の書き方・エントリーシートの記入など、準備を進めていたのではないかと思います。

幼児教育学科の宮下さんもいるので、幼稚園や保育所に関して言いますと、ここ数年は求人が毎年のように伸びています。宮下さんは、就職先を選ぶにあたって、数ある求人の中から、自分に合っているのがどういったところなのかをポイントに、力を入れて就職活動をしていたのかなというふうに感じています。

今年の４年生の大きな傾向としましては、正直今も就職活動が全く進められていない、これから就職活動をやろうと思っている、既に複数の内定をいただいている学生がいるというのが特徴だと思います。

内定先を持っている学生でも就職先を決めるにあたって、自分自身の「働く」ということに対しての基準がぶれてきてしまって、就職活動をいつまでやったらいいのかとか、自分の中でどういう仕事をしたいと思ったのか、ということが分からなくなってしまう人もいました。就職活動で内定がない学生からするとすごく羨ましい反面、じつは複数内定をいただくと、深く悩んでしまうと言う点があるのかなと思っています。

就職の志望はどうやって決めるの？

司会　今までは、前置きのようなもので、これからは皆さんにお話しいただきたいと思います。だいたいどのような所に採用が決まり、それにはどのような活動をしたかについてお話しください。

本間　私が就職を決めた企業は、本社は東京ですが茨城県内の企業で、精密小型モーターなどを開発・製造・販売をしている企業です。配属はまだ決まっていません。

宮下　私は、長野県にあります認定子ども園に内定をいただきました。内定をいただくきっかけは４年生の６月にあった教育実習で、私が卒園した幼稚園に行かせていただいて、実習が始まって１～２週間くらいしたころに、園長先生から、「今年空きがあるけれども、宮下さんは就職をどのように考えているの」というのを聞かれ、「うちに来ない？」という話になって。実習が終わったあともそのような話が進んで、８月に内定をいただきました。仕事の内容は、幼稚園教諭として働くことになります。

對馬　私は、ホテルや施設、社員食堂の料理を作ったり、メニューを考えたりする企業に就職を決めました。私は栄養士がとれる生活文化学科にいて、卒業と同時に資格が交付されることになります。栄養士の資格を持っているので、資格を生かした就職をしようと思いました。

司会　宮下さんは認定子ども園ですけれども、他の２人は企業ですね。まずは、企業に採用が決まったお２人にお尋ねします。就職活動で困ったことや大変だったことはありましたでしょうか。

本間　一番辛かった事は、履歴書やエントリーシートを書き始めた時に、志望動機や自己PRなど、履歴書に書いてある項目がうまく書けなくて大変だったことです。自分なりに書いてみて、就職支援室の方に見ていただいては書き直す作業を繰り返していたのですが、本当にこれでいいのかなと、迷いが出てきてしまって。色々な方に見ていただいて、色々な方からアドバイスをいただく中で、それが一人一人違っていたりして、誰を信じればいいのかが分からなくなってしまいました。

就職支援室　本間さんはすごく真面目なので、私たちの所に何度も通ってくれて、「ここは直しましょう」「ここはこのようにしましょう」と実際の経験談を聞きながら、アドバイスしましたね。お姉さんや先輩方の色々な就職活動の話を聞いていく中で、さらにちょっといい所を取り入れようと頑張っていた分、迷いが生じた時期がありましたよね。

本間　その時期が一番志望動機や自己PRが書けない時期になってしまって、どうしたものかと思ったのですけれども、自分が一番いいと思える形にしようと決めました。そこからは、あまりそのようなことで迷わなくなったというか、迷ったときは、意見を取り入れつつ、自分らしい志望動機や自己PRにしようと思うようになりました。

司会　最終的に決め手となった自己PRの内容はどのようなものでしたか。

本間　はじめは、自分で考えたものをベースに所々直していたのですけれど、姉に相談したところ、「もっと別の事をPRしたほうがよいのでは」と根本から違うと言われてしまって……違うものを考えたのですが、書けなくなってしまいました。「これは自分の言いたい事ではないな」と気付いて、前の内容に戻したりしていく中で、本当に一番アピールしたいことが分かり、これで通らなくても、「この会社は違ったのだ」と思うようにしようと、履歴書を書くようにしました。

司会　具体的には、どのような内容を書いたのですか。

本間　内容としては、自分のアルバイト先での事を書きました。「私は目標をたて実行する意欲が高いです」ということを長所として、それを説明するエピソードとしてアルバイトの内容を挙げ、自己PRを書きました。

松井　本間さんは、キャリアプランニングの授業を受けていましたか。

本間　はい、受けていました。１年生から３年生まで出ていました。

松井　その授業は役に立ちましたか。

本間　１年生の時に、後期の総まとめとして実際にエントリーシートを書いてみようという授業がありました。就職活動では、そのときに書いた物や、３年生の授業でいただいた、過去の先輩の履歴書の志望動機や自己PRをまとめた物を実際に見て参考にしました。

司会　對馬さんは、どのような活動をなさいましたか。

對馬　私は栄養士の資格を活かせる企業に行くか、一般企業に行くかで、一番迷いました。最初のころは一般企業に行こうと思っていましたが、３年生の２月に、川村小学校の実習で実際に給食を作り、子どもたちと同じ教室で一緒に配って、食べて、子どもたちから感想をきくことができました。その中でたくさん学ぶことがあり、こういう仕事を将来やってみてもいいかなと思いはじめました。実習に行った経験が大きく、せっかく資格をとるのだから、資格を活かせる企業に就職するべきだなと思い、栄養士の資格を活かせる企業での就職活動をはじめました。

学内合同企業研究会

文学部心理学科4年　本間早季子さん

司会　それに絞ったのはいつぐらいですか。

對馬　３年生の３月くらいでした。就職活動が解禁するときに決めたのですが、やはり一般企業の中にも気になる企業があったので、そこだけはちょこちょこ試験を受けながら、栄養士関連の企業も受けていました。その中で、履歴書の自己PRや企業を受けた志望動機の内容が全然違ったりしていたのが大変でした。栄養士関連の企業ですと、学校で学んだことを社会に役立てたいといった志望動機になるのですが、一般企業だと、資格の欄を見て「栄養士を目指さないの？」といった所を聞かれるとどうしようと思ったり……心が揺らいだりすることが一番大変だったり辛かったりしたところです。

司会　一般企業を受ける時の志望動機はどのように書きましたか。

對馬　私は、本当に色々な職種の企業を受けたので、特にこれというのはないのですが、私自身が家具や雑貨に興味があったので、それを仕事としてもやりたいですという事を書きました。

司会　本間さんは内定をいただいた企業に決めるにあたり、ご自分としてはどうしてこういう企業に行きたいと思われたのですか。

本間　東京都内の会社に出勤するのは難しいと思っていたので、地元の千葉県かもしくはそれより北の方向にある企業がいいなというのもあったのですが、はじめは学内合同企業研究会で説明を聞いた企業を中心に就職活動を進めていました。その中にあったのが、内定先なのですが、個別の会社説明会に行って、文系出身でもものづくりに携われるということを聞いたときに、そういえば自分はものをつくるのが好きだ

なということを思い出して、ものづくりに携われる会社を探すようになりました。しかし、やはり文系出身だとなかなか難しくて。

そんなときに川村学園女子大学に来てくださっている企業で、はじめにお話を聞き、選考が進んでいくうちに、会社の方々と出会い、みなさん優しく、色々とよくしてくださり。そこから内定をいただいたのも何かの縁かなと思ってそこに決めました。

司会　伺っていると、そこに説明を聞きにいくことで、自分の適性ややりたいと思う事がでてくるわけですね。何がきっかけになるかわからないものですね。

就職支援室　他にもITとか、広い職種を見ていましたものね。お二方とも複数内定をいただいている中で、その一社を選んだのは、最終的な決め手はなんでしたか。

本間　私は人かなと思います。

對馬　私も、栄養士関連で内定をいただいたもう一社は、小学校などの学校給食を作る企業でした。小学校の栄養士になりたいなと思っていまして、その時はそちらがいいかなと思ったりしました。しかし、就職を決めた企業は、一人に対する面接時間が長く、人事の方と色々なお話をすることができて、「将来何したいの？」と話を投げかけてくださいました。３回面接があったのですが、その３回で「この会社は人がすばらしい」と、人事の方と働いている方との距離感もすごく近いように感じ、「こういう会社で社員の皆さんと一緒に、会社に貢献できる人になりたいな」と強く思いました。小学校も確かにやりたかったことですけれど、やはり人も大切だと思い、就職を決めました。

司会　お三方とも相手の企業や幼稚園とのマッチングがよかったのでしょうかね。その意味では、非常に羨ましいと思います。

就職支援室　その意味では、對馬さんは実習では小学校との関わりが強くて、本来なら小学校に関わる企業を選んでいたところだったかもしれませんが、そこを長い面接の中で、気持ちも変わっていきましたよね。

對馬　就職を決めた企業も、学内合同企業研究会にきている企業で、もう一社もそうでした。就職先の企業説明会を聞きに行ったのは、実は始めは興味がなかったのですが、聞いてみたい一般企業が混んでいて入れず、たまたまその隣にあったので説明を聞いたのがきっかけでした。

就職支援室　何がきっかけになるか分かりませんね。本間さんと對馬さんは人との関係で決めたというのがあると思うのですけれど、逆に宮下さんは地元の母園であるというのは、ある意味もともと人間関係が分かっていたりする部分がありますよね。

宮下　実習先を選ぶのは、２年生の初めでした。全然２年後のことは考えられなくて、４年生の６月の実習は自己開拓だったのですけれども、自分が行った園に声をかけてみたのも、新しい園に「実習をさせてください」と自分から声をかける勇気がなかったからで、全く就職は考えず、自分がやりやすい実習先を選んだ結果、卒園した幼稚園になりました。就職も正直地元に帰る気は全くなく、関東にしようと思っていて、関東の幼稚園の就職説明会などに出ていました。東京都内の特別区幼稚園採用試験も受けようと思い、エントリーシートも出しました。

しかしよく考えてみたら、ただ「関東」という土地に憧れていただけで、幼稚園か保育所かもどこでもよくて、本当に働きたい場所を探せていないのではないかと思うようになりました。そんな時に、地元の園でお声掛けいただき、自分が求められていて、自分もここで働きたいと思えたので、ここにしようと思いました。

就職支援室　実習での内容や態度を評価していただいているという感じは自分の中でありましたか？

宮下　自分の責任実習について、その時は全く褒めてもらえず、「ここは違う」と厳しく指導されて、傷つき落ち込んだのですけれども、逆に私の保育を見ていただけて、直した方が良いことも分かったので、ここで就職したら、きっと保育者として成長できると感じました。

就職支援室　実習内容を厳しく見て、ご指導頂いたことが就職に繋がったのですね。それを素直に受け入れられている所も、先生方が評価してくださっていることなのではないでしょうか。

司会　宮下さんは、地元で就職するか、首都圏に就職するかで悩みませんでしたか？

宮下　はい、悩みました。大学に進学する時も、ただ都会に憧れて来たのですけれど、就職も、はじめはただ都会がいいという意識だけで考えていました。実習先からお声掛けいただいた時も、大学４年間の関東での生活がとても楽しかったので迷いましたが、いざ就職すると考えたときには、地元の園の方がすごくよくて。生活環境や自分が楽しいと思える環境を選ぶか、仕事でのやりがいを選ぶかで、とても悩みました。しかし、働くならやりがいがあったほうが良いと思い、地元を選びました。

松井　実家から通うか遠くに行くかというのは大きな問題ですよね。ご家族からは何かありましたか？

宮下　ずっと都会に憧れていて、「関東に就職するから」と言っていたのに、実習に入ってから、地元に帰ってこようか悩んでいることを告げたところ、父には「え、東京じゃないの」と言われました。東京にしなければいけないのかとも悩んだのですけれど、実は父は娘が地元に帰ってくるのを嬉しがっているという話を母から聞いて、どちらでもいいのかなと。自分の意見を言ってみようと思って「地元に帰ります」と言ったところ、受け入れてもらえました。

就職支援室　やはり親元からずっと離れて生活しているので、帰省したときに話をするだけですと、実際の気持ちや様子を全て理解してもらうのはなかなか難しいですよね。

宮下　幼稚園や保育所は一園を受けたらその結果を待ってから次の試験を受ける決まりですから、一般企業に比べると、一つに絞らなければいけない重みがありました。

就職支援室　保育業界の場合、実習園から「就職はうちでどうですか？」と言われたら、「はい」の一言で決まってしまう場合も多いですから、その点では悩みますよね。

司会　他学科の学生からしたら、羨ましい悩みですけれども。

面接での失敗談

司会　就職活動をしている中で、失敗したことや後悔はありますか。

本間　私は、初めての面接の時に緊張してしまって、質問されたことに対して、長々と話してしまい、「結局何が言いたいの」と面接官に言われ、さらに焦ってしまい、その面接はヒドかったですね。とにかく緊張しました。

就職支援室　言いたいことがたくさんあるのですが、それをどこから話したらいいかわからないといった感じでしょうか。

本間　はい、結論から言えばよかったのですが、ダラダラと話してしまい、結局は中身のない話になってしまいました。

就職支援室　自分の中で失敗したなと思う面接は何回くらいありましたか。

本間　その一回ですごく反省をしました。これではだめだと思い、その次の面接まで期間があったので、もっと準備をしようと小さなノートを買って、面接用のノートとして、色々なことを書いたりしていました。自分の中で、模擬面接を設定して、こう聞かれたら、こう答えようという具合に。

就職支援室　一回の失敗で、面接ノートを作って、自分自身を振り返るようにしたわけですね。

本間　はい、そうです。

對馬　面接や年上の方と話すのが、とても緊張してしまい、そのときは集団面接だったのですけれども、自分の言いたいことも言えなくて、周りの意見に流されてしまい、自分を全然アピールできなかったなと、反省しました。

就職支援室　集団面接で他の学生もいると、自分だけがうまく言えていないのではないかと、不安になってしまうと、みなさん言いますよね。

對馬　すごく落ち込みました。その後、自分の言いたいこと、これだけは言っておきたいことを、ノート等にまとめたり、家で読んで練習したりしました。

就職支援室　やはり、失敗しても次に向けて振り返ったり反省したりする作業は必要になってくるということですね。これは「落とされそう」という面接はありましたか。

本間　個人面接だったのですが、面接の途中から会話が成り立たず、面接っぽくないなという感じはありました。聞かれた質問に対してうまく答えられず、そこから会話が広がって行かず、事務的な感じになってしまいまして、これはだめだと感じました。会話のキャッチボールができず、面接官も困っているのを感じました。

對馬　個人面接のときに、「もっとこうした方がいい」といったようなフィードバックをいただいたことがありました。ありがたかったのですが、もうだめだと感じました。直接色々な意見をいただいたのはよかったのですが…。

就職支援室　そこで、めげないのが大切ですね。

松井　内定にたどり着くまでは、何回も失敗したのでしょうか？

本間　私は受けた会社自体がそんなに多くはありませんでした。大失敗をしたのが一回目で、その次の面接が就職を決めた企業でした。そこに至るまでに、「面接だと思うのではなく、ただ年上の大人の方と会話をすると考えた方がいい」というアドバイスをいただきました。そのように意識するようにしてみたら、緊張がなくなって自分の思っていることを話せるようになりました。今思えば、一回目の大失敗には意味があったのかなと思います。

就職支援室　お二人は失敗談があってそれが次につながったケースでしたが、宮下さんは自分の返事次第で先が決まってしまうという重みがあったと思うのですが、なにか面接の時に準備したことなどはありましたか。

宮下　就職のお声掛けをいただいた後に面接がありました。一般的に面接で聞かれそうなことについて本を見ながら準備していったのですけれども、全くそのようなことは聞かれず、園の説明や今後の予定、卒業式の時期や研修の時期のことなどを言われて…。そんな時に、主任の先生から「関東ではなく、なぜうちの園を選んだのか」と聞かれどぎまぎしました。一般的な回答を言っていたら、日本語がうまく言えず、自分の思っていることがうまく伝えられませんでした。最終的に「園長先生からお誘いいただいて、覚悟をきめました」と言ったところ、「私が言ったから決めたのね」と言われて。初めから素直に「先生に声をかけていただいて」と言えばよかったと、素直に自分の気持ちを伝えればよかったと、いまでも後悔しています。

就職支援室　宮下さんとその他お二人では、面接の前提が違いますからね。

宮下　知っている人に改めて伝えるのが難しかったです。知らない人であればある程度自分のことを取り繕ってでも伝えられますが、知られている人にどのように伝えらたらいいのかという難しさがありました。

司会　最後に、これから就職活動をしていく方にアドバイスをお願いします。

本間　私が活動をしていく中で良かったと思うのは、一つ目標を達成したという経験があったことです。大学３年生の夏に富士山に登ろうと思い、結局登頂はできませんでしたが、何かをしようと思ってそれをやり遂げたという事実があると履歴書にも書けますし、面接でも言えますので、何か一

生活創造学部生活文化学科4年　**對馬芽衣さん**

就職支援室　**鈴木江奈巳**

学内合同企業研究会

教育学部幼児教育学科4年　**宮下稜子さん**

就職支援室　**嶋田美奈**

座談会　就活を終えて ～４年生の体験談を聞く～

座談会　就活を終えて ～４年生の体験談を聞く～

つ目標を達成した経験があるといいのかなと思いました。

宮下　幼児教育学科の後輩へ向けてですが、保育関係の就職は遅いため、まだ先だと思っているかもしれませんが、実習がすごく大切だと思います。１年生からの実習で、挨拶や子どもとの接し方などの小さな積み重ねが就職につながってくると思います。それを実習で当たり前のことができるということが大事だと思います。企業と違って、自分に合っている園を見極めるのも難しいので、色々な園の就職説明会に参加して、そこから一つの園を決める決断力も大事だと思います。

對馬　一つは、自己PRをするためにも、何かを達成したことや学生時代にがんばったことなど、私は「これです」と言えるような何かが一つでもあることが必要だと思います。アルバイトもいいですが、やはり学校の中で部活動やリーダーの経験、新しいことを始めたなど、何かそのようなことが大切だと思います。二つ目がインターンシップです。私は３年生の時に一社しか行かず、それも一日のインターンシップだったので、もっとインターンシップに行けばよかったと後悔しています。なので、インターンシップには積極的に行ったほうがいいと思います。色々な企業に長期間行くのがいいと思います。

松井　本日は４年生の就職活動の様子を具体的に伺えて、下級生の活動にも大変参考になったと思います。どうもありがとうございました。

就職支援室から一言

就職のことでわからない事や不安がある時は、ぜひ相談に来て欲しいと思います。日々相談を受け、書類のチェックをしている中で、何もアピールすることがないと言われることがあります。

そのような場合でも、時間をかけながらみなさんの今までの活動や好み等を聞き出したり、進路登録票に書かれた小学校から大学までを振り返って書いた項目を手掛かりに話を広げたりしていくと、実は色々な活動をしていたり、頑張っていることが必ずあります。自分の中で「これが好き」や「これをやっているときが自分は楽しい」ということ、何でも構わないのでそれを探せるようになって欲しいと思います。そこに行き当たるまでとても時間がかかるかも知れませんが、些細なことからの気づきが大切です。

自信がないから質問できない、就職支援室にも行けなという学生もいますが、就職について今困っていることがあれば、何でも相談に乗りますので質問したいことが何かが分からないといった場合でもいいので、そのこと自体をぶつけてほしいと思います。

（司会　梅村恵子）

公開講座　心理相談センター

2015年10月11日（日）、「エイジングの心理学～シニア以降の自分について考える～」をテーマに、心理相談センター主催の公開講座が開催されました。我孫子市生涯学習センターアビスタのホールにて、北原靖子先生に講演いただきました。高齢化社会における現代、年齢を経るにしたがってどのような心構えで過ごしていけば良いのか、心理学の観点に基づき最新の知見を交えてお話しくださいました。高齢になるにつれて一見できないことが増えていくように思われがちですが、いわゆる「生活の知恵」というものは若年者よりもむしろ発展し広がっていくものである、ということを教えてくださいました。また、物事の捉え方は「解釈」によって異なるため、「解釈」を変えることで「対応」も変わってくること、その中で心理学が援助することができるのは「自分自身でこころの絵を描き変える助け」であり、相談することが役に立つこともある、ということをお話しくださいました。さらに講座では、“Let's Try!” と題したワークの時間も設けられ、参加したみなさんにトリックアート（錯視図）とセルフチェック（被援助志向性尺度）を体験してもらいました。セルフチェックは、いわば「相談力」を確認するものです。このようなチェックをすることによって、自分自身を客観的に見るきっかけにすることができます。心理学専攻の大学院生の活躍もあり、ワークの時間は大変盛況で参加者の皆さんから笑顔がこぼれていました。また地域援助の一環として、10月24日（土）･25日（日）に心理相談センター所属の臨床心理士スタッフによる無料相談会を実施しました。今後もこのような活動を通じて、地域に開かれた「こころの相談室」として尽力していきたいと思います。

川村オリジナルの トマトジャム

生活文化学科では、地域連携活動の一環として、我孫子の野菜を生かした商品の開発を行いました。

「我孫子の野菜のおいしさを伝えたい！」「野菜嫌いな方にも食べてもらいたい！」という学生の思いを形にしたのが、トマトジャム、トマト＆ニンジンジャム、グリーントマトソースの３商品です。２種のジャムはトマトやニンジンが嫌いな方にも食べやすくするため、レモンの酸味でさわやかな後味になるように工夫しました。グリーントマトソースは未熟なトマトのさわやかさ、苦味をにんにくとオリーブオイルの風味でまとめました。パスタソースやお料理のアクセントに使えます。

アビシルベまつりで販売を担当した学生

４月29日に開催されたアビシルベまつりでは、準備した300個以上が、わずか３時間程度で完売するほど、好評を得ました。その後、高島屋新宿店で開催された、「『大学は美味しい!!』フェア」でも、６日間で約2000個を販売することができ、ご購入いただいた方々の食卓に、川村学園女子大学の商品が並んだことを光栄に思うばかりです。

また、「『大学は美味しい!!』フェア」の「いいね！」ランキングでは、たくさんの「いいね！」の応援、お力添えをいただいたことで、「いいね！」ランキング３位の表彰をいただくことができました。生活文化学科一同、心より御礼申し上げます。

現在は来年度の出店に向けた新商品の開発を進めておりますが、より我孫子の野菜を魅力的に、野菜嫌いの方にも美味しく食べていただける商品開発を目指して、努力してまいります。

なお、川村のジャムは、アビシルベ（我孫子駅前）、あびこん（手賀沼畔）で購入できます。

能の装束着けをみる

毎年恒例になった「女性文化史（１）」（共通教育科目）での、能の装束着けが、今年も６月８日の３限目に行われました。今年は、能楽「船弁慶」の装束で、前半のシテ（主役）静御前の女性の装束、後半のシテ平知盛の亡霊の装束と、まったく趣の異なる装束でした。

モデルは、静御前が史学科１年の渡邉明子さん、知盛の霊は日本文化学科３年の新堀有沙さんが務めました。宝生流シテ方能楽師の和久荘太郎先生とふたりの助手（この方々も修業中の若手能楽師）が、まるで舞の型でも演じるように、するすると着けていきます。モデルのふたりは、装束の豪華さ、重さ、動きにくさを実感、面（おもて）を着けてその視界の狭さに驚いたようです。参加した学生も間近で見る能衣装と、和久先生の仕舞を十二分に堪能できました。

和久先生は、来年度から日本文化学科の実技「謡と仕舞」の講師として授業をもたれますが、この「女性文化史（１）」は今年度で閉講となります。

第27回 鶴雅祭 10月24日(土)、25日(日)

◆ 国際英語学科

10月24日、第20回レシテーション＆スピーチコンテストを開きました。レシテーション（暗唱）には、６月の予選を勝ち抜いた７名の１年生が目白キャンパスから参加しました。スピーチコンテストには、他学科から多数の参加があり、第１位は観光文化の学生さんでした。国際英語の学生は奮起してください。しかし、学科の枠にとらわれず、大学全体で英語力を競うスピーチコンテストとして、今後ますます、盛り上がっていくことでしょう。

◆ 社会教育学科

社会教育学科では、「アクセサリーの販売」、「2020年、東京オリンピックの展示」、「司書を目指す学生の書評展示」、「子ども向けのビーズブレスレット作り体験」を行いました。特に、子ども向けのビーズブレスレット作り体験が賑わいをみせ、また、アクセサリーも完売となり、大盛況のうちに終わりました。

◆ 日本文化学科

例年通り、日本文化学科の実技科目「日本舞踊」の受講者による発表会も行われました。今年は川村学園女子大学我孫子キャンパスだけでなく、共同開催となった中央学院大学でも披露しました。中央学院大学の会場では、学生や近隣にお住まいの方々など、たくさんの方にお集まりいただきました。授業での練習成果をこのような機会で多くの聴衆の方々の前で発表できたことは貴重な体験になりました。

◆ 生活文化学科

学科展では基礎ゼミのレポート、クラフト作品、ＷＦＰの取り組みなどを展示しました。ジャムを使ったお菓子コンテストや小物作りも体験できました。クラフト作品では、「写真に撮って年賀状にも使いたい、女子大らしい、美味しそう」、お菓子コンテストでは「食べられないのは残念、迷う」などの声がありました。模擬店では、「本格的である、美味しそう、すごい行列」など好評で、今年も鶏の照り焼き丼、シフォンケーキが完売しました。

◆ 心理学科

心理学科は例年通り、４つの企画 ①焼き鳥販売 ②カシスの活動（本学科や大学院の卒業生・修了生を招き、後輩たちにワーク・ライフ・バランスなどを話のしてもらいました。今年のテーマは「恋愛」）③体験箱庭制作 ④体験 コラージュ制作が実施されました。どれもみな盛況でした。

◆ 児童教育学科

恒例となった子供の為のミュージカルは「大きなかぶ」です。

あんぱんまんをはじめ、人気キャラクターも会場の子供たちと一緒に、“うんとこしょ…どっこいしょ”と大声で楽しみ、４年生は「綿あめ屋」さんで大いに張り切りました。

◆ 幼児教育学科

リズム体操発表会

幼児教育学科では、一年生が「日用品を使用したリズム体操」をテーマに、リズム体操発表会を開催しました。発表当日は、たくさんのお客様から温かい拍手をいただき、嬉しさと喜びを感じることができました。

2015年４月着任しました

国際英語学科
倉林　直子（講師）
アメリカ史

国際英語学科
マクシム・シャバリン（助教）
東洋研究

国際英語学科
シャーロット・ゴフ（助教）
歴史学（中世研究）

日本文化学科
真田　尊光（准教授）
仏教美術史

幼児教育学科
古屋 朝映子（講師）
体操コーチング論

幼児教育学科
西村　彩恵（助教）
教育学

社会教育学科
佐久間 美穂（講師）
社会福祉

生活文化学科
甲山　恵美（助手）

教員の昇任

准教授から教授

高津　純也 文学部　史学科
今井久美子 生活創造学部　生活文化学科
大坂佳保里 生活創造学部　生活文化学科
柚木　理子 生活創造学部　生活文化学科
丹治　朋子 生活創造学部　観光文化学科

教員の異動

矢野　重典（教授）社会教育学科 → **心理学科**
松井　　洋（教授）心理学科 → **児童教育学科**
熊谷　園子（教授）観光文化学科 → **社会教育学科**
川﨑惠里子（教授）心理学科 → **生活文化学科**
坂口　早苗（教授）社会教育学科 → **生活文化学科**

大学院担当（新任）

松本　祐介（講師） 教育学専攻
辻　　浩和（講師） 比較文化専攻　博士前期課程
森田　直美（講師） 比較文化専攻　博士前期課程

2015年３月に退職されました

国際英語学科 ★
佐藤　浩子（教授）

幼児教育学科 ★
森田　玲子（教授）

幼児教育学科 ★
山本 由美子（教授）

★名誉教授の号を授与されました

国際英語学科
ゲイ・ロレイン・ブランカー（講師）

幼児教育学科
藤川 志つ子（講師）

児童教育学科
齋藤　慶子（准教授）

社会教育学科
朝比奈 朋子（准教授）

生活文化学科
福永　淑子（教授）

新刊紹介 BOOKS

化物で楽しむ江戸狂歌

日本文化学科講師
山名 順子 共著
江戸狂歌研究会 編
2014年10月発行　笠間書院

栄養士養成課程のための 栄養学 実験実習・演習 基礎と応用［第２版］

生活文化学科准教授
今井 久美子 共著
渡邉 早苗・山田和彦 編者
2015年2月発行　建帛社
この初版の発表掲載が遅れましたことを今井先生に了承していただきました。

改訂 栄養指導論

生活文化学科教授
今井 久美子 共著
相川りゑ子　編者
2015年4月発行　建帛社

感性のひらめき
学ぶこと・生きること

児童教育学科教授
荻原 延元 共著
感性を考える会 刊行
2015年7月発行　紅書房

「大学生とボランティア」を考える勉強会

日曜朝のニュース番組「サンデーモーニング」（TBSテレビ）のコメンテーターとしておなじみの目加田説子先生の講演会が、11月25日（水）４限時に開催されました。

講演のタイトルは「市民参加型社会の実現に向けて―大学生とボランティア―」。

まず、目加田先生が活動している対人地雷の除去、そして、地雷よりもっと危険で始末の悪いクラスター爆弾（被害者のほとんどが民間人、そのうち半分は子どもだという）の廃絶のための運動についてお話されました。次に、先生の講演の内容を簡単に紹介します。

クラスター爆弾の製造・使用禁止の運動を始めたのは、クラスター兵器連合（CMC）という50か国以上が参加するNGOの連合体で、世界中の政府や政治家、企業などに働きかけて、2008年109か国の合意を取り付けた。目加田先生も日本のNGOの一員として、超党派の政治家に呼びかけ、ついに首相の決断で条約の批准にまでこぎつけることになった。

その後も、残忍な兵器が使われていないか情報収集や調査活動などを行ない、また人々にこの運動を知ってもらうための広報活動として、マスコミに訴えたり、高校・大学で講演会を開いたり、国会議員の勉強会に出たりと幅広い運動を展開している。

このように、NGOというのは、プロフェッショナルな集団であり、‘市民参加型社会’に向けて、多様な主体がさまざまに働きかけて、目的を実現させている。

さて、大学生が社会に参加するための第一歩として、ボランティア活動がある。ボランティアvolunteerの語源は、voluntas「自由意志」、volo＝will「自発性」を示すように、１）自発性・やる気、２）社会性・公益性（連帯性）、３）無償性という性格を持つ活動のことをいう。つまり、その問題に対して「ほっとけない」「我慢できない」、そして活動が「楽しそう」という気持ちから始まり、「私を含むみんなのために」、「手弁当」で参加するというのがボランティア。仲間作り、居場所が欲しい、サークルの延長といった気持ちで気軽に参加してほしい。その時に、「納得できないこと」は言われてもやらなくていい、決してがんばりすぎないで、社会のお役にたてればうれしいと、楽しむ気持ちで行くのが秘けつ。

ボランティア活動は、大学生にとっていろいろな世代の大人や、様々な経験を積んだ人たちと接することで社会を知る窓口になる。就職活動でもこの経験は大きなプラスとなることだろう。

講演後、今、小さな子供たちの遊びを手伝う活動をしている学生からの質問などもあり、今後大学としても積極的な取り組みをしていきたいとの、学長のメッセージによって講演会は終了しました。広く国際社会に目を向けわたしにもできる活動を、と強く意識した講演会でした。

☆なお、この講演会の主催団体『紫雲の会』は、熊谷園子学長が代表をつとめ、川村学園の“建学の精神”について学ぶことを目的にしています。今年度からは、３つの建学の精神のうち、“社会への奉仕”について勉強します。次回以降も案内をいたしますので、学生のみなさんも、ふるって参加してください。お待ちしています。

平成27年度　川村学園女子大学公開講座

テーマ：**東葛我孫子発見伝**

10/18（日）	①氷河時代の下総	二上　政夫
	②常磐線のトリビアから紐解く国鉄改革	渡邊　　徹
10/31（土）	③地域の農産品をいかに活かすか？	永嶋久美子
	④噛むことは一生の宝物	今井久美子
11/14（土）	⑤子どもを取り巻く教育環境	馬上　美知
	⑥ワーク・ライフ・バランスのあるくらし―仕事・家庭・地域―	柚木　理子
11/28（土）	⑦オリンピックと嘉納治五郎	藤原　昌樹
	⑧我孫子市の文化財	梅村　恵子

今年度は、「東葛我孫子発見伝」と題して、地域と大学との連携をテーマとして公開講座が開かれました。二上政夫先生の「**氷河期の下総**」からはじまり、梅村恵子先生の「**我孫子市の文化財―血盆経と熊野比丘尼**」まで、我孫子市民には興味深い講演が続きました。講演の内容については、大学のホームページから「～女子大は四季の風にうたう～「知」への扉　リベラルアーツ in KAWAMURA」のブログへ入ってください。順次、更新されています。

上橋菜穂子先生 本屋大賞受賞

本学特任教授の上橋菜穂子先生が、昨年の国際アンデルセン賞に続いて、新作『鹿の王』（KADOKAWA）で、2015年の本屋大賞を受賞されました。本屋大賞は、他の文学賞とは違い「全国書店員が選んだいちばん！売りたい本」をキャッチコピーに、本と読者に一番近い書店の店員の投票によって選ばれるものです。店頭に平積みされていますから、是非読んでみてください。

なお、2016年の春から、綾瀬はるか主演で『精霊の守り人』シリーズがドラマ化されます。第１回は３月19日、『放送90年 大河ファンタジー「精霊の守り人」』と題して、NHK総合テレビで３年間にわたって放映される予定です。出演は綾瀬はるかのほか、藤原竜也・小林颯・吉川晃司・東出昌大・平幹二郎など豪華な顔ぶれ。こちらもご覧になってください。

オリエンテーション

心理学科

今年度のスタートを切るオリエンテーションは本学前にあるNEC我孫子倶楽部で行われました。新しい大学授業に向けてどんなスタンスを組み立てていけばよいか？について、新入生と教員が一丸となり、真剣かつフレンドリーな交流と昼食会が行われました。後のオリエンテーションのアンケート結果も大変好評でした。

幼児教育学科

幼児教育学科では、船橋アンデルセン公園にてオリエンテーションを行いました。あいにくの雨でしたが、オリジナルキャンドル製作や親指姫スタジオの見学など、上級生ボランティアとともに、室内の施設を満喫しました。また、その後は我孫子市鳥の博物館にて、様々な鳥の生態について学びました。初めて出会った同級生や上級生と和気あいあいとした雰囲気の中、互いの親睦を深めることができました。近い将来、保育者として子どもたちを遠足に連れてくる姿を想像しながら、希望に胸を膨らませた一日でした。

学科ニュース

▶社会教育学科

千葉県夢チャレンジ体験スクール

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課が主催する、平成27年度千葉県夢チャレンジ体験スクール（キャリア教育科学・先端技術体験キャンプ宿泊コース）が、８月19日から３日間の日程で開催されました。２年ほど前から社会教育学科の主に３年生が学生スタッフを務めており、今年も５名の学生が、参加した中高生約60名のサポートを行いました。

初日は５つのグループに分かれて先端技術をもつ企業や機関を見学し、技術の一端を体験しました（ノーベル賞を受賞された梶田隆章氏が所長を務める東京大学宇宙線研究所も訪問しました）。２日目に「さわやかちば県民プラザ」に移動してからは、ロボット工学の専門家による講演や、企業や機関の研究者を招いて研究のやりがいなどをインタビューする交流会などがありました。

研究者との交流会の様子

企業への引率から生活面のサポートまで、次々と進行するスケジュールに追われながらも、参加者にとって有意義な経験になるよう奮闘した３日間でした。

▶児童教育学科

「児童教育学科女声合唱団」が我孫子市合唱祭に参加しました！

芸術の秋、１年生は「アカペラ合唱、ラテン語の宗教曲、300人の聴衆の前で演奏発表」という高いハードルに挑みます。合唱発表は『人の前に立つ教師』になるための意義ある経験と学科で位置づけて早４年。聴き合い心を寄せ合う練習の結果、ミューズの神が微笑み、会場いっぱいに美しい響きがあふれ、とても嬉しかったです。

クラブ紹介

ハンドベル部

「ベル・クレイン・リンガーズ」の イタリア・ローマでの演奏旅行記

川村学園同窓会での演奏がYouTubeに投稿されたのをきっかけに、イタリア・ローマ・ヴェルガータ国立大学より、演奏会の開催依頼があり、「ハンドベルを知らない国に、川村学園女子大学が初めて伝える」を目的に、卒業生３名と３年生４名が演奏旅行に参加しました。２月27日はローマの「日本文化会館」で東日本大震災『花は咲く追悼演奏会』を、翌28日には『ローマ・ラディスポリー市市長の招待演奏会』を、そして最後は３月２日にローマ・ヴェルガータ大学で演奏しました。海外での演奏は充実したものとなり、現地の人たちにハンドベルの演奏を喜んでもらえたことが最大の思い出になりました。